



## ●壁を乗り越える

今週は、マレーシアに滞在しております。目的は、木更津高専の短期異文化交流プログラムにおける学生の引率です。マレーシアの高等学校のひとつの Sekolah Sultan Alam Shah (SAS) で、授業参加、スポーツ・文化活動など異文化交流を1週間で行います。

現在は4日目、マレーシアと日本の学生がひとつになっていく感じが感じられます。コミュニケーションは、英語・マレー語・日本語が入り混じり手振りや表情も加えて、まさに異文化交流となっています。これは「異文化の壁を乗り越える」とも言えると思います。

### <異文化の壁を乗り越える>

・言葉の壁を乗り越える・文化・思想を理解して思い込みの壁を乗り越える・国の壁を乗り越える。

ここであえて、色彩教材研究会の「壁を乗り越える」を定めると、**・地域の壁を乗り越える・分野の壁を乗り越える・色彩教材の原点を尊重しつつ既成概念の壁を乗り越える。**

色彩教材は時代の流れとともに変化していきます。「現在、必要とされている色彩教材は何か？」ここを起点として、色彩教材研究会がチームになって動き、「壁を乗り越えたい」と考えています。(吉澤陽介 主査より:007)

## 新刊紹介 色のちからを日々活かす本

発行：山と溪谷社・191頁

監修：橋本実千代

監修協力：小坂真由美・滝川優子

発行：2024年9月25日 1,980円

色彩教材研究会の橋本実千代さんが監修された「四季の色彩心理学・色のちからを日々活かす本」が9月5日に発売されます。

パーソナルカラーを念頭に入れた構成になっているカラフルで、非常にわかりやすく、美しい色彩心理学の本です。

四季に分けた71色の「色名」が選ばれています。「菜の花色」、「アイボリー」、「納戸色」、「ロイヤルパープル」など、外来色名と日本伝統色名がほどよく取り上げられています。

私が嬉しかったのは見開きで示された色名説明の右ページが、色の本質が強調された美しい一枚の写真で構成されていることです。

序章の「色彩心理学のキホン」を参考にし、研究会員の方々が、自分なりの色彩教材を組み立てて、使ったり、相談していただくと橋本さんもお喜びになるでしょう。

色が持っている「ポジティブ」な面と「ネガティブ」な面を使った教材など、面白い組立てが可能です。パーソナルカラリストの方々にも購読をおすすめします。(永田泰弘)

## ●大辞泉ひろいよみ 68ーく

**黒焦げ**：くろこげ。焼けて黒く焦げること。

**黒駒**：くろこま。毛色の黒い馬。甲斐国黒駒のあたりから産したという黒い馬。

**黒米**：くろごめ。精白してない米。玄米。

**黒核**：くろざね。スイカなどで種の黒いもの。

**黒錆**：くろさび。鉄さびのうち、黒いもの。主成分は酸化鉄。

**黒地**：くろじ。地色が黒いこと。そのもの。

**黒潮**：本州の南岸沿いに東方に流れる暖流。

**黒書院**：くろしよいん。将軍や大名などの大規模な殿舎に設けられた書院。天井の格子、障子の縁、床框まで黒塗りしたもの。

**黒装束**：くろしょうぞく。頭から足元まで、黒い衣装を着けていること。その人。黒支度。

**黒白**：くろしろ。黒と白。事の是非。よしあし。こくびやく。画面が色彩ではなく黒と白で表されるもの。しろくろ。

**黒水晶**：くろすいしょう。黒色をしている水晶。放射線の影響によると考えられている。

**黒砂**：くろずな。黒色の砂。磁鉄鉱・チタン鉄鉱のほか輝石・角閃石・錫石などを含み、砂金・砂白金を含むこともある。

**黒炭**：くろずみ。木炭の一種。土窯で焼き、そのまま消火させるので、黒色で質が軟らかい。くろめ。どがまずみ。(永田泰弘)